

地蔵盆に関するアンケート調査（新型コロナへの対応）

最終結果のご報告

地蔵盆は近年、地域コミュニティ形成の観点から再評価されています。6月下旬より今年のご予定、及び近年の開催状況等についてアンケート調査を行ってきました。回答にご協力くださった皆さま方に感謝申し上げますとともに、調査の結果について報告させていただきます。今年は新型コロナウイルスの影響により地蔵盆の開催の可否を含め実施のご判断に苦慮されているご町内が少なくなかったと拝察します。当調査の結果が今後の地蔵盆のあり方を考える上での一助になれば幸いです。

調査主体：京都府立大学生命環境科学研究科 住環境防災学研究室（前田研究室）

実施責任者：前田昌弘（京都府立大学生命環境学部 准教授）

実施時期：6月下旬～8月10日頃

実施方法：

①WEB アンケート 以下のHP等において回答用フォームを公開した

- ・京都市文化市民局文化財保護課 京都をつなぐ無形文化遺産「地蔵盆ウィズコロナ」特設HP
- ・京都市文化市民局地域自治推進室 自治会・町内会 & NPO おうえんポータルサイト
- ・（公財）京都市景観・まちづくりセンター Facebook ページ
- ・実施責任者（前田昌弘）の個人HP

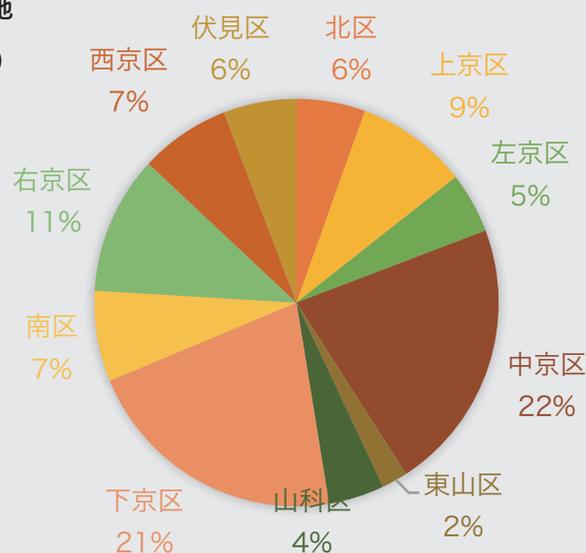
②調査票の配布 実施責任者が直接依頼できる学区の自治連合会を通じて学区内の町内に配布した。

また、京都市文化市民局地域自治推進室を通じて市内の各区・支所（計14箇所）から地域の地蔵盆関係者への調査票の配布を依頼した（各30部、計420部）。

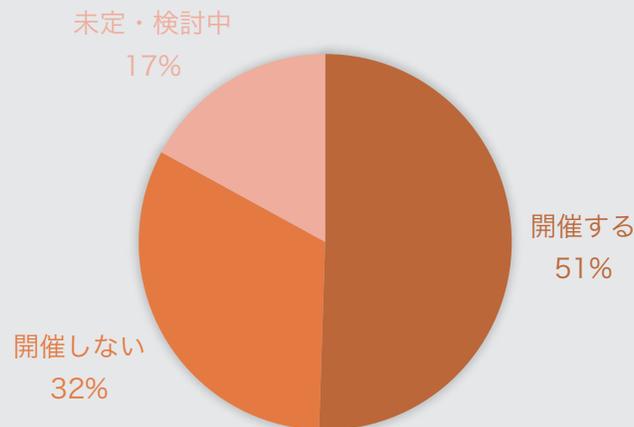
有効回答数：①WEB アンケート 71件、②調査票 221件、①+②合計 292件

ご回答頂いたご町内の所在地

(n=292)

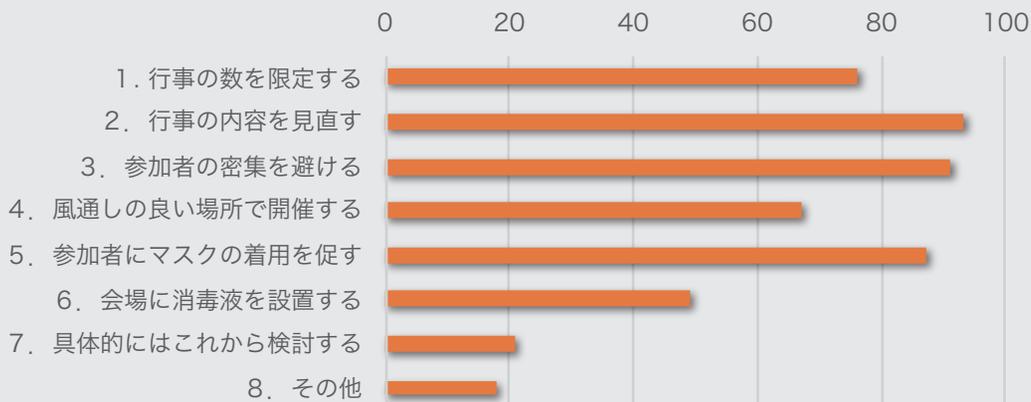


今年、地蔵盆は開催されますか？ (n=292)



「開催する」が5割、「開催しない」が3割強、「未定・検討中」が2割弱であった。

「開催する」と回答された方で、地蔵盆を行う上の工夫などあれば教えてください（複数回答可）。



例年よりも時間を短縮して行う

今年はお寺さんによる読経と各家庭へのお供えのお下がり配布のみ行う

お坊様にお経をあげてもらい子供におやつを配るだけにする

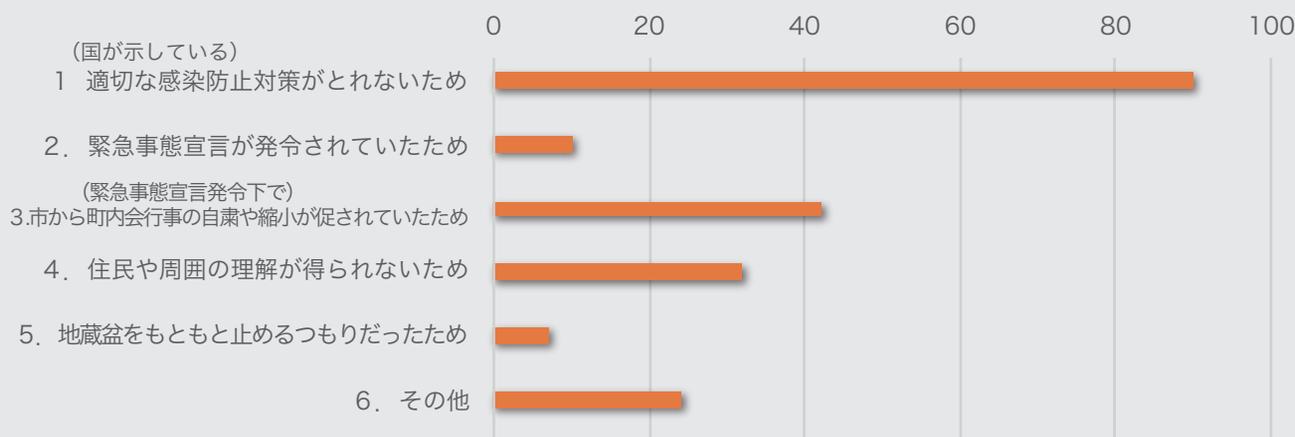
町内会の役員だけで地蔵様にお参りする

例年通りではなく簡素化して行う

数名の有志によりお地蔵様の祠の清掃とお寺さんのお参り、子供向けの福引き景品の各戸配布のみを行う

開催する場合も行事の短縮や簡略化により「密」を避ける工夫をしている。

「開催しない」「未定・検討中」と回答された方、その理由を教えてください（複数回答可）。



お地蔵さんを洗い、祭壇にお祀りして2時間ぐらいでしまう予定

今、役員で様々なアイデアを出し合って開催にむけ準備しています

パーティションの設置、マスク着用、消毒液の設置、検温の実施、参加者名簿の作成等、あらゆる手段を用いて準備予定

開催しないほうが良いという意見が町内で多いため

8月頃の状況で町内の方々に相談してから判断する

コロナ対策をした上で開催できる場所が町内にない。子供どうし、距離を保ちつづけることが難しい

マスクを着用すると熱中症対策が不安になる

詳細は7月末の町内会役員会で決める

町内で適切な感染防止対策が行えるか、話し合っている。

今年の地蔵盆の開催について町内の世話役や役員の方で話し合われたことや住民の方から寄せられた声など、具体的な事柄があれば教えてください。

○周囲の状況や住民の意見を踏まえて判断する

学区内の近隣ご町内の様子を見て相談しながら足並みを揃えて判断するということになりました。

開催するかしないか、開催するならどのように工夫するか、役員だけで判断するより町内の住民の皆さんの意見を確認したほうがよいという事になり、アンケートを実施した。

学区市政協力委員会の場で各町内会長が集まった時に、「学区内では、実施の可否を統一しましょう」となりました。その結果、「僧侶の読経」、「人を集めず、子ども用お菓子等の配布」だけを行うことになりました。

○行事の内容を縮小する等、安全対策をした上で開催する

1年に一度のことなのでお坊さんにお経をしっかりあげてもらいたい。感染症対策と熱中症対策をしながら縮小して安全な形で開催する。

大人が集まる行事は中止する。子供も自宅で行燈の絵描きをしてもらい、集まらないようにする。

地蔵盆は子供達の健やかな成長を願い町内老人の憩いの場となり祖父母にとって孫と過ごす貴重な行事である。今年は運動会や祭りなど学校行事、地域の行事はことごとく中止となった。町内としては2020年夏の子供の思い出づくりのため事業内容を縮小しコロナ感染防止対策を十分に行って実施することにしました。

役員会で中止か開催かを問うたところ、中止まではなくてよいという意見が役員全員の意見であった。密になるプログラムは中止し、マスク着用は絶対なので飲食、BBQは中止とした。食品を配ることも中止との声が多かった。準備も密になるため地蔵のお飾りは中止したほうがよいという声もあった。密を無くすため、午前中のみ開催とし、福引きは行うが、ビンゴ、すいか割、輪投げは中止する。

コロナ感染の第二波増加の下、(1)地域交流の維持、活性化のため、安全を第一に従来通り開催する考え、(2)学校の夏休みの短縮、諸催事の予定・状況を勘案、安全・安心を第一に慎重にする考えにほぼ二分された。子どもたちの健全な成長を祈り、町内会員の無病息災、安寧を祈るお参りという儀式的な面を維持することとし、一日の開催に決定した。

例年より規模を縮小して開催。①お地蔵さんへのお供え・お参りは感染対策を実施した上で行う。②ゲームやイベント、レクリエーションは感染防止の観点から実施しない。③お子さんへのお菓子は対象となるご家庭に役員がお届けする。

町内はビルがほとんどで住んでいる世帯は2世帯だけです。町内に子供はいません。大人達だけの大日さんですので、お参りのあとの足洗がメインでしたが、今年はなしにして祠の前でのお勤めだけになりました。

例年、地蔵盆行事（主体：育友会）に引き続き、町内納涼祭（主体：実行委員会）を実施していましたが、今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から行事内容を見直し、納涼祭についても飲食（BBQ等）を取りやめ、打ち上げ花火のみ実施する予定です。

子ども会の一部は通常開催を希望されたが、高齢の方々によるお手伝いを考えると、感染状況が先行き不透明な中、例年通りの開催は避けるべきと判断した。お地藏様の法要は役員のみ参列し、自治会員さまへは福引き相当の商品券の配布、子ども会企画でお楽しみ「おやつとおもちゃ」を配布することとした。今年は皆様の安全を最優先とした密集・密接にならない開催を実施予定です。お金と時間に余裕があればもっと良い企画があるかも…！

例年より規模を縮小し以下のかたちで開催することを検討しています。
①お地藏さんへのお供え・お参りは感染対策を実施した上で行う。②ゲームやイベント、レクリエーションは感染防止の観点から実施しない。③お子さんへのお菓子は対象となるご家庭に役員がお届けする。

コロナ禍でいつもと同じ開催は難しいけれど、何もしないのもどうかという意見があった。お参りと前掛けの交換（前掛けは毎年有志の方が作成）だけでもという声があり、できる範囲で実施することになりました。

学区の行事が中止になり町内で参加する学区行事や金銭の支出が減るので例年の地藏盆のための寄付の受け付けは行わず、町費からの支出で開催することにした。3密を避けるため子供のゲーム等は行わない。

○住民からの不安の声を踏まえて中止を決定

町内の人から1人でも「コロナが心配で参加しない」という意見ができれば、町内として開催するのは難しいと考え、中止を決定した。

小規模でも開催することを考えたが、お手伝いが集まるのも三密は避けられないとの判断により今年度は中止を決めました。

住民の方から「今年やるんですか？」という不安、心配な声と多数いただいた。外ではあるが密になる可能性があることが心配だという意見がでた。また、他の町内も中止にされる場所が多かった。

○苦渋の決断の末、中止を決定した

準備作業自体が感染防止の面から大変である。役員負担が大き過ぎる。個別にお参りしてもらおうようにする。距離を保っての数珠回しができて子ども達はそれだけで終わらない。密を防ぐための方策が見当たらない。

通常のテントの中での地藏盆の活動は密になりやすく、あまり口うるさく子ども達に言うのも楽しみを奪ってしまう事にもつながります。やはり狭い建物での開催はコロナ感染の危険があるので消極的になります。

祠に地藏さんがら体あり、大人数（高齢者がほとんど）で動かす必要あり（横のガレージに祭壇をつくる）。子供も外孫さんのみとゼロに等しい。町内唯一のコミュニケーションの場で心苦しいが、高齢者が多いため中止とした。

役員会で安心・安全の観点から中止を決定した。昨年はレンタルしてきたお地藏様を町内の会場に安置し、初めて数珠回しを行い、例年になく盛り上がったので大変残念に思っている。

お年寄りが多い町内であること、町民総出で準備や行事をすること、子供たちを集めて密に遊ぶなどというのは酷だと思いう理由から中心を決断した

町内の役員会で開催の是非から話し合った。中止の主な理由は
1. 高齢者が多く、集まることによりクラスターが起こった時が怖い
2. 食物を取り扱う場合が多いのでそれも怖い
3. 「三密」をどうしても避けることができない。また、感染後の風評も後に引くので怖い。
4. 今後の地藏盆の在り方を改めて考える機会が与えられたと前向きに捉えたい。

○地蔵盆は中止するが、代わりにイベント等をする

地蔵盆はしないが、子ども対象に小規模な花火を実施する。また大人向け（各世帯向け）と子ども向けの配りものだけ行う。

地蔵盆は開催しないが幼児、小学生、中学生に対して町内会よりクオカード、お菓子を配布する。町内会員様には全家庭にクオカードを配布する。

地蔵盆そのものは開催しないが子供達の行事であるのでお菓子配り、子供用福引きを1人当たり2000円分の商品券として配る。小学生・中学生・幼児のみ。

○お参りや祭壇のしつらえを縮小・簡易化して開催する

町内にお地蔵さんがいない地域のため（普段はお寺に預けている）、お地蔵さんに会えるのが年1回のこの時期だけである。そのため、縮小してでも開催してほしいという声があったことから、簡易祭壇（緋毛氈、お花、果物盛のみを準備）にてお地蔵さんを設置する。フリー参拝というスタイルで実施する予定。

例年の様なテントを張っての地蔵盆は行わない。お寺さんに来ていただき、祠の前でお地蔵様にお経をあげてもらおう。子供達にはお菓子などを配布。子供達に地蔵盆について理解してもらう為にプリントを作成して配布する。

例年通りのやり方（駐車場内に会場を設置、1日に渡る行事）は取りやめにしました。ただ、不開催では寂しいので、法要のみ地蔵堂の前の道路で住職にお願いし、参加は自由としました。なお、子供へのお楽しみはプレゼントのみ行います。

三密をさけるため毎年やっていた集会所（室内）での子供向けのイベントを中止とした。地蔵さん前にテントを張り、お供の受け付けをするが、お参りの方への飲み物の配布は中止する。地蔵さんを飾りお参りにくる人だけに対応（マスク着用、2m離れて）。時間を短縮し、お子さんには後でお菓子などを各家に配る。

例年の内容からは大幅に縮小しての開催とする。例年通りの祭壇などテントの設営は中止。福引、盆踊り、ピアガーデンも中止とする。お寺さんの読経及び町内会の皆さまへのお供養を配る。子供のおやつも配る。

地蔵さんを祠から出さず（例年は6体の地蔵さんを出し、別の場所に祀っている）、扉を開け、お寺さんのお参りはしてもらおう。役員のみ参加する。但しお知らせは全世帯に配布する。

今年はイベント的な行事は中止して、お寺でお地蔵様を本堂の前に置き法要のみを行う。町内の物故者供養を兼ねて役員のみ参列し、お参りさせて頂くことにした。

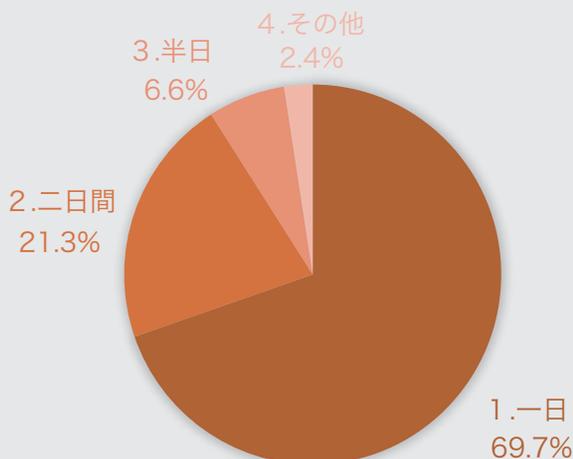
○コロナ以前から規模の縮小、行事の簡略化等を行っていた

地蔵盆は2年前から開催規模縮小の流れとなり、毎年入れ替わる会長＆組長（世話役）の負担軽減のため、取りやめの声がたくさん上がる中、お飾り付け、お供え、お菓子は各家庭に配るのみとなってきています。

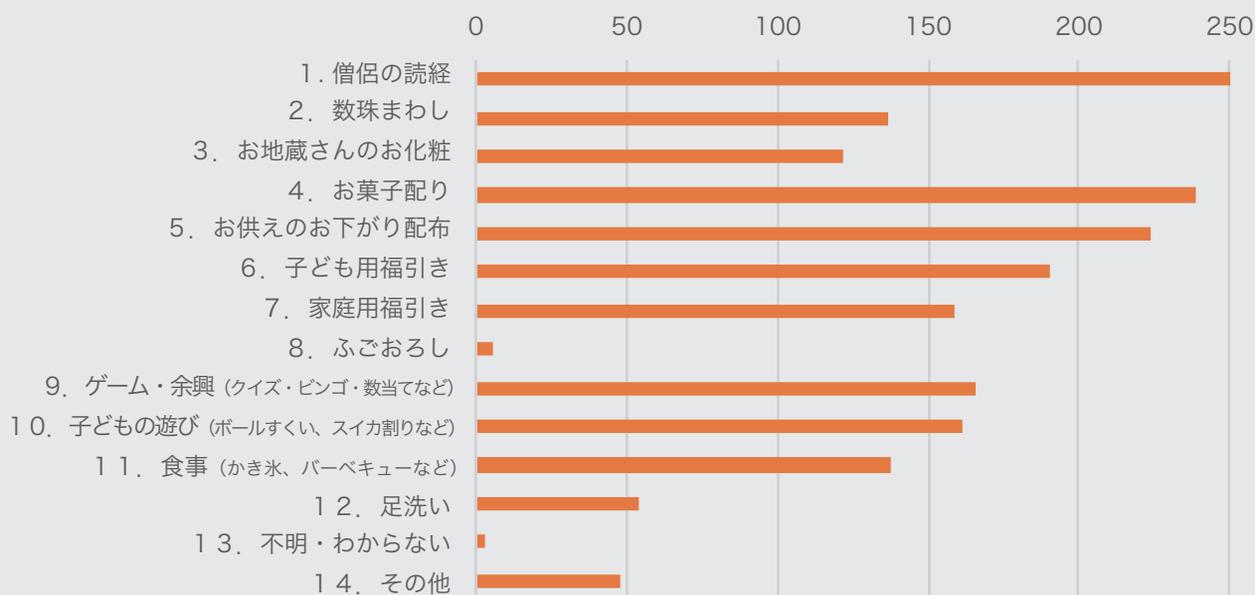
「5月のお千度参りもやめてQUOカードの配布にしたので、そもそも子どもも減ってきていることもあり、柔軟に考えていいのでは？」といった話が出ています。

数年前、祠のあった場所が宿泊事業者所有となった。やむなく、地蔵盆の際に毎年お読経をお願いしていたお寺に預かってもらうことになった。お町内としては元の場所にお祀りしたいが事業者との折り合いがつかずにいる。以来、毎年町内会役員がお寺を訪問し、お参りをするのみの行事となっているので、今年も例年と変わらない。

昨年の地蔵盆は何日間開催されましたか？ (n=291)



昨年の地蔵盆で実施された行事について教えてください (複数回答可)

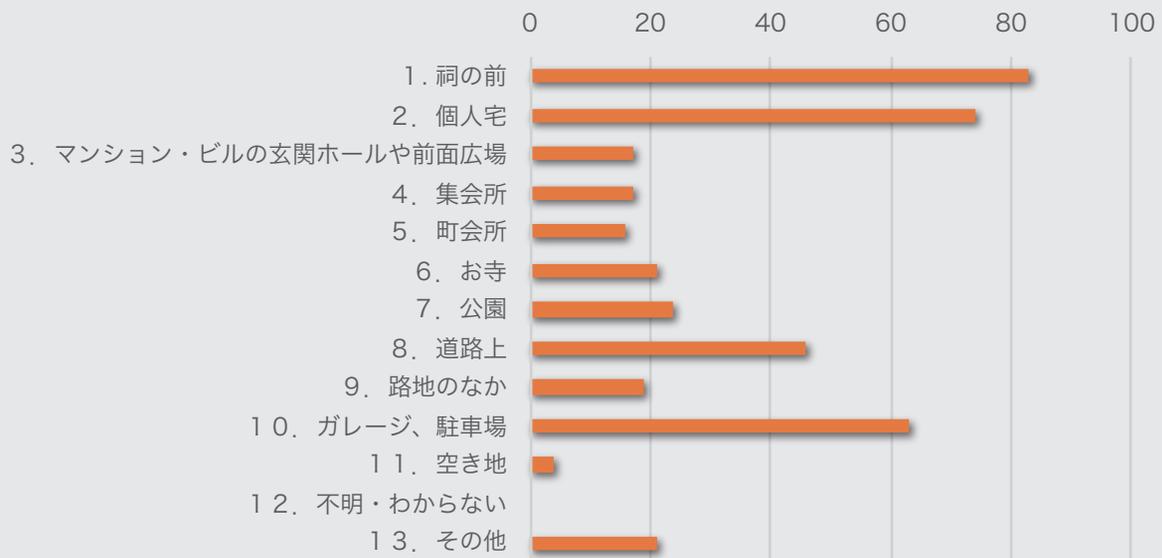


「その他」の内容

- ・子供たちへの図書カードの配布
- ・ビデオ上映
- ・軽い食事とジュース、ビールサーバー
- ・恒例のアトラクション (昨年はマジックショー)
- ・クイズ大会
- ・寄付を頂いた各家庭へお礼の粗品を配布する
- ・和太鼓の演奏
- ・子供全員による灯笼づくり・パレード、夜店
- ・流しそうめん
- ・子供用のプールの設置
- ・読経は地域の念仏講に依頼している
- ・読経は住民でやる
- ・学習活動を取り入れた科学教室、道徳を取り入れた本の読み聞かせ、子供たちの防災避難訓練など

読経のほか、お菓子の配布、お供えのお下がり配布は定番の行事。福引き、ゲーム・余興、子供の遊び、数珠回し、お地蔵さんのお化粧、食事も多い。その他、各町内で特色ある行事も工夫されている。

昨年の地蔵盆で使用された場所を教えてください（複数回答可）。

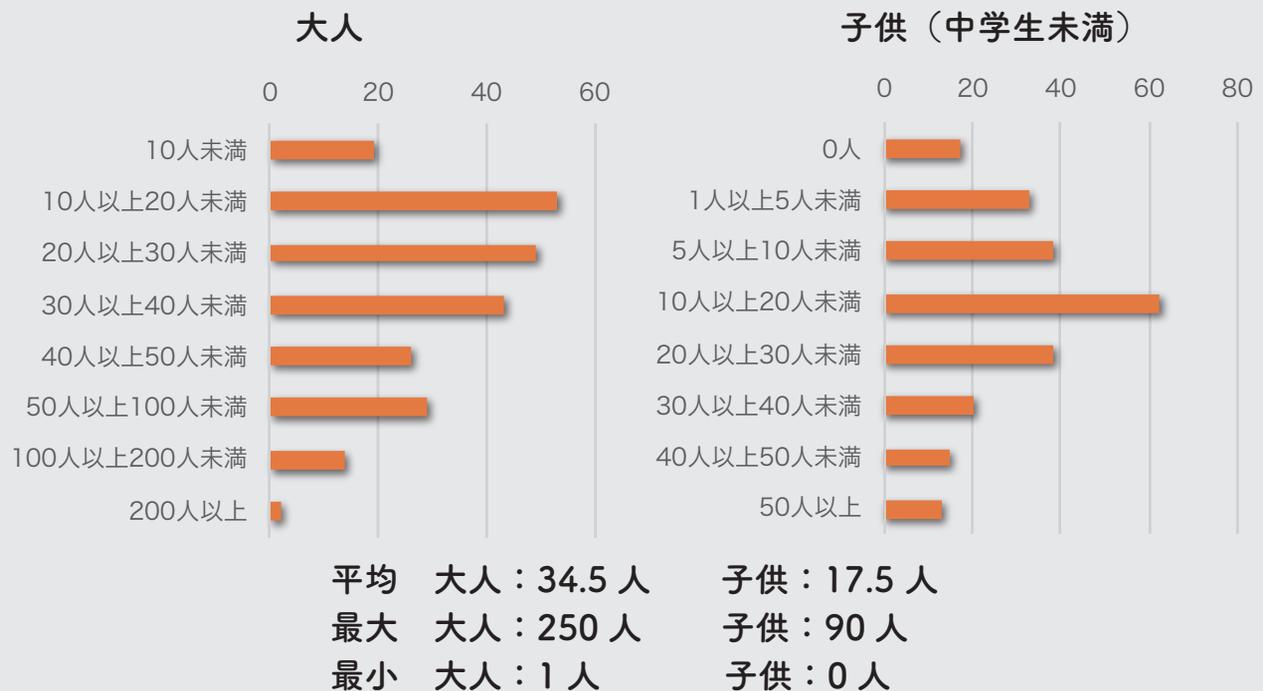


「その他」の内容

- ・ホテルの宴会場。お地蔵様をお運びして僧侶も来て頂いて読経&数珠廻し&会食
- ・デイサービスセンター
- ・ホテル
- ・マンション・ビルの3F 空室
- ・事務所前のガレージ
- ・民泊
- ・商店の駐車スペース
- ・倉庫

祠の前、個人宅、ガレージ・駐車場、道路上等、様々な場所が利用されている。

昨年の地蔵盆に参加された方の人数を教えてください。



地蔵盆の参加人数は町によって異なり、規模にはかなりの幅がある。

地蔵盆を今度も続けていく上での懸念があれば教えてください（複数回答可）。



「その他」の内容

- ・ 祠や道具の老朽化に伴う更改費用捻出のための負担の増加
- ・ 地蔵委員の取り組み方（やる気）が変わってきている（低下）
- ・ お地蔵さんを祠から取り出し、会場の祭壇に飾り付けるのですが、重くて若い人がいないと段々大変になってきています。
- ・ お経を上げて頂く方の後継者の問題
- ・ 住民の高齢化
- ・ 若い人の無関心化
- ・ 町内世帯数の減少

子供の人数の減少、担い手の不足、参加者の減少が特に懸念されている。

地蔵盆を継続し、盛り上げていく上で行っている工夫があれば教えてください

○行事の内容やプログラムを工夫する

ホテルの宴会場を地蔵盆の会場とし、会食をすることで多くの方に興味を持ってもらう

住民の方が毎年弦楽器ミニコンサートを開いてくださるので、たくさんの住民の方が楽しみにしています。

過去は金曜日に設営し、土日の丸二日間をかけて実施していた。現在は土曜日午前中に設営し、日曜日の夜は道路使用許可申請を出し通行止めにして盆踊りを町内で実施している。併せて、大人向けにビアガーデンを開催。10時で終了し、その後、後片付けをする。

行事のプログラムに幼児・高齢者への交通安全教室を入れている。警察署に紙くばりも含めて毎年協力をお願いしている。ビンゴゲームを子供、大人全員でやり、数字を読む係は子供達がお世話をする。初日の夜は持ち寄りで集まる食事会（飲み会も）をする。

地蔵盆の際に消火訓練、区民体育祭向けの練習（大なわとび等、国体競技）を行う

地蔵盆の際に防災訓練を消防署・消防団の指導で毎年必ずやっている。夜の足洗は懇親会を兼ねており盛り上がる。

子供福引きは親御さんに子一人当たり2000円程度の品を用意していただき、当日あらかじめ持参、名前を付箋で貼っておき、当人に渡す。持参につき2000円渡す。そうすることで子供に必要なものを渡せる。

定番の数珠回し、ゲーム（ビンゴ）、かき氷、家庭用福引きを行うことで、参加者が多くなり盛り上がります。

当町内には若い世帯が多く、開催にあたって特に心配ごとはない。開催日が他町内と違い伝統的にお盆の15・16日に開催するため外孫達が京都の地蔵盆を楽しみに帰ってきます。

○子供も大人も楽しめる工夫をする

大人の方も多く来ていただけるように大人向けのビンゴゲームを実施している

読経や子ども向けゲームのみならず、全員が参加できる親睦会を可能な限り実施している。

老若男女が楽しめる恒例のアトラクションを継続していくこと。外孫さん達の参加が今後も増えていくような魅力あるアトラクションを探していきます。

飲食（バーベキュー、かき氷、お酒、ジュース、食べ放題・飲み放題）を充実させることで大人も子供も楽しめます。

子供のいる家庭だけでなく大人の方もビンゴ、福引きに参加してもらう。リクリエーションはしないが、その分、景品を豪華にして沢山の方に集まってもらえる。

○参加の呼び掛けを積極的に行う、若い世代にも運営に関わってもらう

ママ友ネットワークの活用。LINEグループなどで参加、協力を呼びかけてもらうなど依頼して、他の町内会行事には参加しないマンション住民にも参加してもらう。

町内会員以外にも参加の声かけをしている

町内の2/3が住民のいない店舗のため、声かけをして出て来てもらっている

子供がいる家庭に参加の声かけをしている

大学生のボランティアに運営に協力してもらっている。

従来の子ども達にお菓子等を与えるだけでは子ども達も満足しないと思いますので、創意工夫が必要です。子ども達の目線にあわす為に地藏盆行事の計画企画に子ども達（高学年）に参加してもらい中身を考えていきたいと思っています。

町内行事として行っているのですが誰でも参加できるが、参加しない人をどうするか、工夫したい。

子供たちが喜ぶであろうおもちゃ・お菓子類の選定を出来るだけ多数の人（子供達の親から）から参考意見を聞いて行う。

○世話役や参加者の負担を軽減する

少数の役員だけで運営するのではなく各担当を決め、少しの時間だけでも手伝ってもらい、運営側の意識をもってもらうようにしている

経費の見直し。足洗いの省略やお供え品の内容変更などによって経費を削減した。代わりに子供のチケットを値下げして参加しやすくしている。

費用は全て町内会費から支出することにして、当日個別に「お供え・お布施」などは集めないこととした（個人負担の軽減のため）

地藏盆の当日、熱中症の懸念から、随時うちに帰る休み時間を設けている

以前は午後からの開催にしていたが、朝準備して1回帰るのが大変ということになり、昼ごはんをそうめんを出すことにした。お供えをしてくれる方に飲み物の中身の提案してもらう（その時に飲めるものにして経費削減）。

行事を限定して、世話役の負担を減らしている。費用もあまりかけないようにする。

3年前迄は行事日数2日で有ったが、行事数を減らし1日で終わるようにして世話役の負担を減らした。

石でできた大きなお地藏さんで、安置されているマンション奥の狭い所から運び出すのが一苦勞。若い人の参加が今後望みにくいので、お地藏さんを描いた掛け軸を用意しました。

○日頃からの付き合いを重視し、町内会や地蔵盆世話役へ勧誘

お世話役を子供のいるマンションの世帯におねがいしている

日頃からの近所のつながりを大事にしている

町内や隣接のマンション住民へ積極的に参加して頂けるよう、1ヶ月前から地蔵盆のアナウンスをしている。町内のマンション住民の方に役員になっていただく。

現在、子供はマンションにお住まいの方が多く、マンション住人とコミュニケーションを取り、合同で運営している。

町内会の方々と出会った時に挨拶だけではなく世間話等する様に心掛けている。

町内にまず入って頂ける様に案内を配布する。高齢の町内会員の負担を減らすように助ける。

役をする大人も楽しめるよう日頃からコミュニケーションを心がける。クイズでは防災に関する問題が多い。

地蔵盆が先人から受け継がれたコミュニティの場であることを理解してもらい、マンションの住民も組に入ってもらい、地蔵盆等の手伝いを依頼する。地蔵盆だけでなく自治会・町内会の年中のイベントの写真を撮っておき、新年会の際に音楽とともにスライドショーで上映し、イベントの様子を知ってもらい、地蔵盆の前夜には屋外（ガレージ）にて子供映画会など楽しめる内容にし、また、大人の方も楽しめる内容としている。

夏のお祭りとして地蔵盆を開催している。実行委員会に参加してくれる人を住民だけでなく町内出身者（関係者）からも募集している。

マンションなので一年に一回どんな方々が暮らしているのか顔合わせするための行事として運営している。

当町内は新しい住宅が建ち、若い入居者が増え、子供さんも多くなっています。町内会役員が町内会加入をお願いしに行きます。

いかに楽しい行事にするか、担当役員が前任者やOBに相談しながら案を煮詰めて行き、町内全体の意見も取り入れることで行事への参加意欲を引き出す。意外と個性的でユニークな適任者が身近に居ることを発見しました。来年以降は専任者の設置を検討しています（実行員的な）。何はともあれ行事を消化するのではなく楽しむことに尽きる。

○地蔵盆に関する知識や継続していくことの重要性を伝えていく

子供の数が少なくなってもいったん休止すると再開が難しいので、なるべく毎年行くと良いと思います。

少子化は避けられない社会現象なので、粛々と年に一度、飾り付けをし、法要を行い、伝統を守っていくだけで十分と考えています。

役員は毎年変わるので、「継続する！」という意識を申し送っていくことが大事である。

京都発祥と言われている地蔵盆のことを大人も子供も知識がないのが残念。地蔵盆中止の代わりに地蔵盆の冊子を作成したい、と思いましたが、断念・・・。

毎年の恒例として行われているが、本来の地蔵盆の意味や知識を教えてもらいたい。お手伝いする人がもっといれば。

町内にお寺があり、お寺を中心に継承していく。地蔵盆で集まる時に食事会などで親睦をはかる。

○お地藏さんのお世話を通じて関心をもってもらう

町内にお地藏様の安置場所が無く個人宅で管理しています。道路上や空き地や河川管理地に許可があれば常時安置ができて、いつでもお世話ができる環境ならば、地域の皆様や子ども達にも関心が持たれると考えております。行政に相談出来ないか思案している。

○少子化・高齢化にあわせた行事の内容の見直し・工夫

大人でも楽しめる行事を増やしている（子供の数が少ないため）。

子供もさることながら、敬老者にもおやつを配る。

子供も減ったので、事業の内容を含めて縮小して継続している。

以前は二日間行っていたが、現在は子供の数はゼロ。世帯数も減少している。参加者高齢者と少ない中で唯一のコミュニケーションの場なので一日のみとし、夜はリクリエーションを兼ねた足洗いをやっている。近所のレストランを日曜の夜、特別に開けてもらい飲み会をしている（二年前から）。

町内には子供が1人もいません。路地の中に8世帯が住んでいます。路地の中の住民が自主的にお花等を月二回お供えする（費用は町費より）。

子供より高齢者が多いので、昔ながらの地藏盆の実施は出来ない。災害時などの避難について話し合う場としている。

老人の方も楽しめる行事を組み入れる事により参加者が増加している。

当町内会では一時、子供が0人（現在12名）であったことから、地藏盆を地域コミュニティの場として活用している。また、高齢者が6割を越える地域であることから、福引の景品を現金として、少しでも高齢者や独居者の参加を促している（景品の現金については色々な意見があるが現金としたことで参加者は倍増した）。

以前の子供が多かった時のように盛り上げようとは思わない。今のやり方で継続していく。

全世帯、全ての子供、外孫が参加できるように福引きの景品を工夫しています。足洗でも多くの人に参加できる工夫をしている。

お地蔵さんは普段、どこに安置されていますか？（複数回答可）

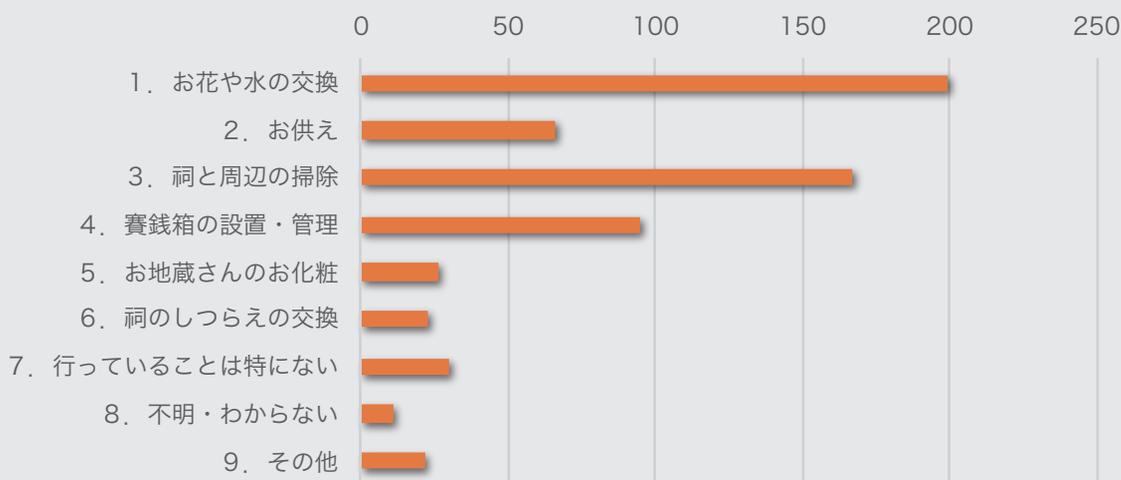


「その他」の内容

- ・ 緑地帯の中（市管理地）
- ・ 町内会長の持ち回り
- ・ お参りするお墓の敷地に置いている
- ・ 公園内の祠
- ・ 商店街の敷地
- ・ 町内会が所有する土地にある祠
- ・ 町内の神社の一角
- ・ 町の所有地

個人の敷地内の祠、道路上の祠をはじめ、町内外の様々な場所に安置されている。

お地蔵さんの管理（お世話）で行っていることを教えてください（複数回答可）。



「その他」の内容

- ・ 地蔵盆当日のみお供えとお化粧をしている。
- ・ 祠修理の積立金を集めている
- ・ 地蔵盆当日のみ、お花・水、お供えをしている
- ・ 月に一度、お花（役員が町費で購入）を供えている
- ・ 普段は町内会長宅にてお世話している
- ・ 安置するお寺に管理料を支払っている
- ・ 地蔵盆当日のみお化粧を行う

町内のお地藏さんの特徴や謂われなど、ご存じのことがあれば教えてください。

50年以上前の道路工事の際に発掘され、個人の厚意によりその敷地内に祠を設けた。

80年程前に嵯峨地域の方が竹藪で見つけられ自宅で安置保管されている。どう見ても縦長の石にしか見えないですが！

30年ほど前、町内の道路工事で、地中から発見された

明治初期に刑務所が有り、刑人が彫った石仏がその後、土地の大家が家を建てる時出てきた???

道路要所にあり、交通安全の地藏様と以前より地域の先輩達が言っている。子供達の通学路にあり、見守ってくれている。

道路沿いに面していて車が多く、T字路でもあり危険が多いが、地藏さんのおかげで今まで大きな事故もないのが不思議なぐらいです。

うちのお町内には「町式目」もあったらしく、かなり古くから自治をし、そこにおられた古くからのお地藏さんです。娘さんの結婚を八卦で見たもらったところ、町内のお地藏さんが大変力のある方なのでお願いしなさいということだったらしい。その通りに1か月お参りを続けると素晴らしい縁談が授かった。その方は以来、熱心にお地藏さんのお世話をされている。

町内の片隅でいつも子供さんの安心、安全を見守ってくれており、1年1回は地藏盆の日にお地藏さんを化粧し感謝し一日を過ごす。

以前にあったお地藏さんは民家の井戸の中から発見されたと聞いております。最近になって持ち主にお返ししたため、町内の人々が新たに作成し、宝石、厨子等も寄付していただきました。

町内には昔から町内有志が建てた4～5坪程度の地藏堂が路地の奥にある。

3年前に祠を新しくしました。地藏さんと大日如来さんの祠です。合計280万円かかりましたが、素晴らしく日本檜の正目のみ使用。屋根は上等な銅板を使用。鈴も素敵なのが下がっています。

毎年、壬生寺へ役員が借りに行き、背負って町内へ帰って来た。地藏盆が終わればお返しに行かれてたとか。今は町内ですっとお預かりしているそうです。

江戸時代からの道しるべ地藏さまと聞いている。右あたご（愛宕）、左うずまさ（太秦）、と刻印されている。

厨子の中に入っているのは珍しいらしい

昔は当町内にはお地藏さんがいらっしゃらず、隣の町内からわけて頂いた（たぶんこの由来が正しい）。朝、家の前にお地藏さんが置いてあったともずっと言われています（どこからかこの町内にお地藏さんが歩いて来られたということになっています）。

地域の方が町内の人口が増加した昭和30年代に町内会が別れた時、比叡山の講の方が江戸時代からの仏様ということで提供して下さった木彫の20cmくらいの菩薩様です。今は近くのお寺さんの読経ですが、以前は住民の講の方が法華経を続読されていました。

江戸時代文政年間の記がある

昭和40年代に宅地開発をされた時に2体のお地藏さんが出土したと聞いています。以来、町内会が祠をつくりお祀りしています。

大正年間に町民が町内地蔵堂の地中に埋まっていた石仏地藏を発見し、お祀りをした。戦後のベビーブーム期に地蔵堂を改修し、子供のお祭りとして最盛期を迎えた。

大正14年より大日会が始まり、集まるようになった。当時は他の町内も含め大がかりな地蔵盆で、盆踊りも連日100名以上の参加で盛況だったが、今は町内も別れてわずか9軒、高齢者ばかりの町となった。

残念ながら謂われをご存じであったであろう人達は亡くなってしまい、それを伝え聞いている人もいません。

2004年8月に化野念仏寺より町内の所管となる。この地蔵は「子授かり地蔵」として住民からの信仰を集めている。

近世以前から現祠に鎮座する由緒あり。町内住民以外の市民からも幅広く崇敬されている。

長い間（昭和30年代頃から）町内のお地藏さんとして地域を守って頂き、町内外の方も毎日お参りされておられ大切なお地藏様です。祠の場所にマンションが建設された時も移動のお話がありましたが、土地所有者のご厚意でそのまま祀られています。

謂われは特に伝わっていないが、昔、町内の旧家の地中から10数体のお地藏様が発掘され、町内では保管ができかねるので、近くのお寺に預けた。そのお寺が戦時疎開で太秦へ移られ、遠くになったため年に一度、町内三役がお参りする。

中京区ですがコロナ前まではインバウンドによる土地需要の急増に伴い平成元年頃のバブル以上に世帯の減少が著しく特に借家の手放しによる立ち退きによって旧来の世話方がいなくなり町内会費、行事の維持が急激に困難になってきています。行政は観光や宿泊に力を入れるのも良いですが、無形文化遺産レベルの地蔵盆、京都らしさを保護すべく、観光関連税をこれらの行事へ助成してほしい。マンション住民と旧来の住民とは全くコミュニケーションが取れていないので、町内行事へは全く関心を持ってもらえない。問題は色々ありすぎて大変です。借家の跡はワンルームマンションかホテルにしかないので地域にとっては何も良いことがないと感じています。

学区内でマンションに地藏さんがある町内が少ないので、なかなか貴重な形で祀っています。

当アンケートや地域の地蔵盆についてお考えやお気づきの点など（自由記述）

高齢世帯が増え、町内活動の担い手は減っているが、口を出す人間は減らず、改善は難しい。とにかく現状維持で次年度に引き継ぎたい役員ばかり。社寺関連の出費が多いにもかかわらず、それらの根拠となる教育が乏しい。氏子の意味を理解する機会が少ない。

宗教的行事ではあるが、地域の行事として残していきたい。しかし、押しつけにならないような工夫が必要だと思う。住んでいる町内では特に問題は感じていませんが、知人のところでは足洗い（飲み会）のようになっているので、そもそも地蔵盆がなんのためなのか広める必要があると思います。

どの地域でも人口減少、少子化と地蔵盆の文化の継続には困難な状況です。祇園では参加する者もほとんどが50～60代ですので、今はまだ大人の社交、交流会といった形で行っていますが、20-30年後どのような形でこの文化を維持していくのか問題も多く、住民だけでなく地域全体、店舗等も含めての開催はもちろん、もしかしたら2-3町合同も可能性としては大いにあると思っています。

今年は基本的に地蔵盆を全面中止としました。ですが、尼講さんをお願いせず有志の御詠歌をやろうとしました。しかし、東京での感染拡大を受け断念。そのかわりに、お地蔵さまが寂しい思いをなさらぬよう、町内会の皆さまのご厚意でお地蔵堂がお花で満たされるよう回覧で呼びかけた結果、町内会の皆さまが改めてお地蔵さまに理解を示してくださり、続々とお庭のお花や折り紙やお賽銭が集まってきており、とても嬉しい結果になってきました。まだ地蔵盆までは日にちがありますが、とても嬉しい結果がはじめています。これまで、お地蔵さまに手を合わせたことがないとおっしゃる方からの支持も現れ始めています。お供えだけでもさせてほしいとか。やはり地蔵盆の伝統を風化されてはいけくないですねのコメントとか、いただいています。嬉しいかぎりです。

何かの方法で、アンケートの結果を見られるようなページがあれば。或いは、具体的な悩みや解決方法その他情報交流の場があれば、楽しくなりそうです。

ウィズコロナの地蔵盆Q&Aにも投稿させていただきましたが、今年はお地蔵さんのお参りにあたっての感染対策について一番頭を悩ませております。つきましては具体的な方法について、ウィズコロナの地蔵盆Q&Aの方にアップしていただけると大変助かります。

京都の各町で行われる行事は、いったん中止されると再開が難しい。今年、地蔵盆が中止になった町内では、中止の背景に子供の減少や、担い手の高齢化などもあり、コロナが中止のきっかけになったところもありそうだ。コロナの影響ということだけではなく、背景の事情も把握する必要があると考えます。

高齢者が増えてきているので町内会費支出レベルでできる地蔵盆請負団体があれば助かる町内会もあるのではないかと。また、学校運動場など開放し複数の町内が集まってお金を出し合っているなど、そんな統合化による方向性も模索すべきかもしれません。

当町内会は残念ながら人が住み、暮らす場所ではなくつつあります。恐らく将来も新しくここを住まいとする人はないでしょう。今のところ子供が生まれてくる可能性はありません。本来は子供のための地蔵盆ですが私が転居してきた20年前には既に大人のものになっていました。京都市内でマンションやアパートのないところは近い将来、同じ様な事になるのではないかと危惧しています。地蔵盆どころか「暮らし」そのものがなくなるのではないのでしょうか。町内の大半が店舗になってしまった今、住人が担ってきた役割を店舗のオーナーや従業員が代わって務めることができるでしょうか。新しい仕組みづくりが必要だと思います。

地蔵盆をはじめ地域事業を進めるにあたり近年の問題は資金不足が大きな問題となっている。豊かな資金源（商店、事業所、工場等）がある所は維持・継続できるが、高齢者や独居者が多く占める、いわゆる下町と言われる地域では継続するのが困難になっているのが現状です。

少子化で廃止の町内会が増えています。子ども達にとって夏の楽しい風物詩です。市が主導して廃止の町内会の子ども達も実施中の町内会地蔵盆に参加を促すように自治会、町内会に強く働きかけてくだされば動きやすいです。もちろん、他町内会の人は参加は一律いくらかの参加費を設けて、一度廃止すると子供達が増えても二度と復活できないのが通例と思います。町内会で年に唯一、一同が介して顔を合わせる貴重なひとときです。子供達に夏の良い思い出をつくってやれます。
当町内は冷房の効いた場所で行うことができマジックショーなど老若男女が楽しめることを行っている所以他町内の希望の子供達も受け入れてやりたいと常々思っています。少子化、私学通学等で昔のように町内会の縄張り意識のようなものは子供達の間では皆無と思われる。

私は京都を離れて45年、静岡で働き、68才のとき戻って来ましたが、子供の頃の思い出があり、21年ぶりに復活させました。その時は京都造形芸術大のプロジェクトとして生徒6人と共催しました。その後は生徒さんが語り継がれて6年開催しています。一番うれしかったことは卒業生が会社を休んで手伝って来てくれたことで、私の考えである子供の思い出は一生続くということが実際にあったということです。1人は東京、1人は大阪から来てくれました。

昨年に地蔵盆担当役員代表者になりました。6月の下旬から準備をして会場の確保や様々なことでほとんど疲れ切ってしまいました。地蔵盆行事をもう少し簡略化して行いたいと思っています。

町内の人間関係の結束にもなりますし、また、京都の文化発展のためにも良い風習として地蔵盆を後世に残していきたいと思っています。

町内に安置されているお地蔵さんはどこも由緒があるように思います。地蔵盆の時だけでなく節分の日もお祀りされたり、お正月にお地蔵さんをお飾りし、その前で新年を祝うなど、町内によってお地蔵さんの関わり方が色々あります。私達の町内はこのお地蔵さん、地蔵盆があることでコミュニティが形成されているように思えます。また、子供の成長を見ることができます。と同時に年配の方とのコミュニケーションを唯一取れるのが地蔵盆だと思います。逆に、私たちも、どのような地蔵盆があるのか、ご紹介いただければと思います。

私の学区は地蔵盆について、学区で24町内がありますが、どこの町内も地蔵盆については大人も子供も非常に参加率もよく盛大に行われています。また、各町内とも色々工夫がされ、大人も子供も本当に楽しんでます。この地蔵盆についてはできる限り引き継いで欲しいと思います。

今年はコロナウイルス対策のため異例ではありますが対策を考えて伝統行事を守りたい。こういう時だからこそ地域の皆さまの熱意、協力が発揮できるのであって些細なことも伝承していきたい。

私達の地域にはお地蔵さんはありません。しかしながら地域住民との繋がりを大切に繋いでいく、子供達を通し、大人達の絆を強くする。こんな気持ちを引き継いでいく。この気持ちをもって今日までやってきました。しかしながら先に言いましたように高齢化と新しい住人の方々のご理解にはかなりの時間と努力が必要と感じる日々です。とは言うものの、経験者と新人とのコミュニケーションを取りつつ話し合い助け合い、町内会活動の基本中の基本をコツコツとやり続けること、これしかないと思っています。この思いを次世代へとつないで行くことを大切にしたいと考えております。

地蔵盆は町内会の数少ない友好活動である。伝統ではありますが、子供達を大事にする心とお年寄りを大切にすることを工夫すれば新しい伝統が築かれると思います。

地藏盆は子供が少ないので（子供がいなくなると止める町内もあります）、地藏盆は町内住民の安泰を祈る場と位置づけしないと消えていくのでは・・・。

最近はどこもそうですが子供が少なく我が町内の中学校3年生までおやつを渡していますが年々子供も大きくなり後6～7年したら全て中学校を卒業します。新しく子供のいる家庭が引越して来られません。約80軒の町内です。また、高齢になり、年寄りがもうやめたらどうかという話がボチボチ出て来ていますが、まだ子供の居る家は行く方に動いていますので、子供がなくてもするように持って行きます。年寄りも子供も居る時代は一所懸命やってくれました。

伝統を守り続けてきたが、年齢層的に限界かもしれない。昔の思い出で外に出た人が当日戻ってくるので何とかやっているが、役員も選びにくく見通しは暗い。（筆者も79才）
「町史」をよくぞ発行したものと今更感心しています。資料集め、製本まですべて有志が手作業でよくできたものである。

いろいろ大変なことはありますがぜひ「継続すべき行事」です。場所の問題が大きいです。町内にあるゲストハウスを利用しているところがありますが、タイアップできればGoodアイデアと思います。

地藏盆については、テントやお地藏さんの設営、プログラム運営の負担が大きく、また温暖化の影響により熱中症の危険もあり、新型コロナの影響がなくても、極めて実施が難しい状況である。加えて、京都市から提供された「感染防止策を踏まえた地藏盆」映像を見て、これは私の町内では実施不可能だと思いました。何かあったら、会長の責任になると思っていますので。また、私自身が京都外の出身で、今だ地域行事に馴染めないでいる。共働き家庭でもあり、地域活動の負担は極めて大きく、仕事にも影響を及ぼしている。少子高齢化の進展に伴い、地域活動の負担軽減を本気で考えて欲しい。町内会長等（PTA含む）、役に当たることが罰ゲームとしか現状考えられない。ほんと強制やくじ引きで決めるのは、辞めていただきたい。

町内の会員が多く集まる場としては地藏盆の他に町内会の日帰り旅行、一斉清掃、区民運動会等があります。中でも、この地藏盆は老若男女を問わず、多くの方がお参りしたり、ゲームに参加することのある貴重な行事となっています。今後とも、工夫をしながら継続していきたいと思っております。

私が小学校時代（昭和34～39年）は二日間あり、バス旅行が楽しみでした。みなさん参加され、町内最大の行事でした。今は肅々と淡々と、酔っ払う人もなく・・・。

コロナの影響で何もかも中止になったが京都の行事と言えばほとんどが疫病撲滅が起源なので何かの方法で行事をやるべきである。

高瀬川の淵に道路と川の間にお地藏さんが2体あり、1体は町内のお地藏さん、1体は大日如来さんと言われています。道路使用を京都市に5年間に1回提出してきました。地藏盆を町内でやっている所が子供が少なくなり、やっている町内も外孫を入れない所等で、新しい「学区の地藏盆」をやろうということになってきました。今年始めて学区で学校の跡地に新しくできた広場でやる予定です。詳細はこれから決めます。

地藏盆もそうですが土地の神様への感謝の気持ちなどが薄れていて自分のことだけしか考えてらっしゃらない方が増えました。様々なことでボランティアの人にかかる負担が多く、次の世代がいなくなることの不安がつのります。

前夜祭で飲食を伴った親睦会を行ってきたが、参加者は毎年同じ顔ぶれで、高齢者は参加しにくい為、コロナを機会に懇親会を廃止にしたい。

伝統行事を守っていくには人手と時間とお金がかかります。最近、合理化の名の元に簡素にしようという気風が多く未来が心配です。町中で古い住民が少なくなり商売人が増え地元愛のある人が減り、個人の都合の意見が多くなってきた。

たまたま、今年度役員に当たっていたので関わっておりますが、仕事をしていると企画運営は大変です。しかしながら、子どもの楽しみと地域コミュニケーションの場である事から、京都ならではの行事として継承して行かなくてはならないですね！

地域差もあるかと思いますが子供の数も昔と違いかなり減っており、逆に高齢者の方のほうが多いのが現状です。地蔵盆に限らず町内の行事はご高齢の方にはかなり負担にもなっており、若い世代の方もおられますが、それも昔と違い共働き世帯が多くなっていますので若い世代でも違う意味で負担になってはいます。昭和の時代は世話役の方とか町内に一人や二人そういった方がいらっしやったのですが希薄な関係にもなってきましたし、そういう方がいなくなってきました。生きていくのに難しい時代になってきてこういう行事を行うのにもいろいろと気を使うことが多くなってきました。

今年度から町内が6組から3組に縮小され、子供会も無くしました。地蔵盆は続けて行きたいと思っているが、子供会会長・副会長の担当がおられて続けてこられてきたことなので、来年からは企画、買い物、準備等、少人数で賅っていくことは難しいと感じています。高齢化に伴い、役をされる方も年々減っているのです。このコロナをきっかけに地蔵盆をなくしていかなくてはならないだろうなと思っています。

一昨年まで町内で地蔵盆を開催しておりましたがライフスタイルが変わってきたのとお世話して下さる方が減ってきたことで寺院参拝→会食という型が変わってきました。とても残念ではありますが、変化を受け入れていくことになりました。住民が減り、店舗の増加、ホテル建設、マンション建設、中京（洛中）は古き良き街並みがなくなりつつある。それとともに子供が減り、行事も縮小してきている。残念です。

地蔵盆自体の実施については異論はありません。残すべき伝統の一つとして認識しております。但し 今回のような感染症が流行した場合の対応は 自然災害と同等な臨機応変に対処出来る考え方が必要だと実感しました。

近年の少子化により町内会に入会する子ども達の人数も減少傾向にあり、息子、娘の子供（外孫）を招いて地蔵盆を続けているのが現状です。コロナ感染拡大の状況下での地蔵盆はそれぞれ大変苦慮されていることと思います。でも、ピンチをチャンスと捉えて子ども達と一緒に意見交換をする絶好の機会です。また、町内会の役員同志が心を開く良い機会になり新しい人材発掘に繋がってくれば大変有り難く思います。

50年前までは日程も2日あり、子供たちも多く、金魚すくいや少年補導委員会学生班のアトラクションなど賑やかだったのが年々子供が減少し、30年前には地蔵盆行事1日、あと1日は日を変えて（土日）プールや野外活動を行った。その後減少の一途をたどり（子供5〜7名）野外活動の代わりに子供福引きには予め親に3000円ほどの品を用意して頂き、子供福引き時に渡し、親に3000円を渡すことになった。（現在は一人あたり2000円）

20年前はついに町内在住小学生以下がゼロとなり外孫など募ったが“大人だけの数珠回し”が続いた。

10年前に42区画のマンションが建ち、町内会加入の建築協定書を結び、子供達の参加も復活して昨年は町内在住者の外孫8名、マンション在住18名の子供達を数え、賑やかさが戻ってきた。

しかし、3年前に竣工した町内2棟めのマンションは町内会加入を最重要事項として建築協定を結び新築されたが、入居が始まると「町内会に入る義務はない！」「49区画中5区画が反対している」と未だに未加入の状態が続いている。強制力がないとはいえ紳士協定を信じて協定を結んだ住民は憤慨を隠せない。

当町のマンション以外の構成はテナント・事務所8割、住民2割の構成であり、祇園祭の山鉾を出す町内でもある。地蔵盆を含めた町内行事と伝統文化の維持のうえにも、祭事を担っていた旧住民の跡地の新住民の協力がなければ維持継承が先細っていく懸念が生じる。

法律で「入る義務はない」ならば、行政の後押し（プリントでは読まずに捨てられる）で地域の自治会への加入を図って頂ければありがたい。

地蔵盆はだんだん薄れている風習です。しかし、子供も減り、担い手が減ってきている今こそ内容を見直して子どもたちとお年寄りが共に集い楽しめることにしていく必要がある。

当町内会における運営

- 1 2日間の開催（所用ある人には一日だけでも参加し交流してもらう）
 - 2 設営、準備、片付けは高齢者を除き全員に参加、協力を要請
 - 3 福引券、おやつ券を各世帯、高齢者、子供向けに配布。抽選、引き換えのため会場に足を運んでもらうよう設営。
 - 4 両日とも、子供の遊び場に加え、昼食（カレー、焼きそば・・・町内会員がつくる）を提供し、会場で食し交流してもらう場を設定
 - 5 高齢者どうしの交流、会話の場を設定
 - 6 お寺さんと一緒にお参りをし、祠を開き、平素から見慣れたお地蔵さん、祠への関心を醸成してもらう
- 等により、開催を維持してきているが、子供の数の減少、高齢化世帯の増加、住環境の変化（集合住宅化、地域柄学生向け集合住宅化）が顕著で従来の面でのつながりを維持していくことの難しさを思う。伝統と変化の融和をどう図りつつ守っていくかが課題となると思っています。

子供が増えているところもあればどんどん減っている地域もあります。地蔵盆は地域の方々が顔を合わせる、年に一度しかありませんので、次の代、その次の代まで続くように工夫しながらやっていくべき。

今年はコロナの影響でお参りだけになりました。いつもは親睦も兼ねて食事会もして、普段会わないご近所さんも話したりして1年また健康で安全に過ごせる様Nに声を掛け合います。子供の人数も少ないですが大人もいっしょに数珠まわしをして続けて行きたいね、と話しています。子どもが沢山いた頃は子供達も本当に楽しみにしていて色々な催しをしました。町内の親睦として良い集まりだったなあと思います。

町内に居住する子供が年々減少しており、この機に大人たちが会費を出して町内懇親会を開催するようになり、年中行事として継続している。

町内で昔からの住民はわが家だけとなりましたが、大日さんのおまつりで年一回ビルのオーナー、管理会社の方とお会いでき、お話をすることで、どうにかつながりが保たれているような状態です。

現在住民は2軒のみです。30年くらい前から企業ばかりの町内で元住民が4軒で、会場も各家庭輪番にしていたのですが、最近はそれもしんどくなり、祠の前に椅子とテーブルを置き、お飾りをして1日そこで楽しく交流しています。会社の方もお参りに参加して下さる方もおられます。大人だけの地蔵盆ですが、最後の1人になるまで頑張ります。

子どもたちの楽しい夏のおもいでとして大人の地域の交流として京都ならではの行事で大切だと思います。一方でわたしの地域は2つの班が順番に地蔵盆を担当。その時の班長が主に世話役をしますが、それが大きな声で言われる方はいらっしゃらないけれど「大変負担」とよく個々に言われるのを聞きます。「2年後にこのままだと世話役になるけれど、とてもできない（やりたくない）ので代わりにやってほしい」と言われて実際に数年後代わりに担当したこともあります。とても大変でした。個々に仕事や家庭の事情などもあるため、世話役に負担がないような手順や効率化できるところはシンプルにして、より皆が楽しい行事なればいいなと思います。

お地蔵盆というのは「京の無形文化財」というだけあって、千年の都が存続し続けた先人の知恵の一つであると思えます。というのは、お地蔵さんというのは、地獄に落ちた罪人も救うという慈悲深い有難い方らしく、本当は深い信仰ではあるが、必要に応じて無色透明の誰でも受け入れるという懐の大きな慈悲深い方で、人の交流のための単なるシンボルにもなって下さる。まるで観光寺でちょっと仏教体験するような軽い感覚ですら受けれて下さるのに似ています。こんな融通無碍の方は、まさに日本的な信仰の姿の真骨頂であると言えらると思います。つまり現代の「無宗教」という日本人の大多数もこの日だけは、神妙な心持ちでお地蔵さんに手を合わせ、数珠回しをし、みんなが仲良く繋がろうと思える有難い日になるのです。数珠回しを初めてして「これが有名な数珠回しですか」と感激した若いママさんもおられます。つつい時代の変化に右往左往してしまいがちですが、京都はやはり1200年を乗り越えてきた古都ですから、この大きな波もきっと乗り越えられると思います。「最後の一人になるまで頑張ります」と言われた蒔絵屋町のFさんの言葉が大きな励みになります。『地蔵盆』というのはこれから人を繋ぐ絆として、大きな役割を果たして下さるかも知れません。